



[Teeta]



「テエタ」

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



須田信氏収集資料 土器（夕張市教育委員会蔵）

○平成 18 年度発掘調査概要	2
○平成 18 年度の調査	3
○資料紹介 1 千歳市キウス 9 遺跡出土の石刃鏃	4
○資料紹介 2 天寧 1 遺跡出土の漁撈具	5
○特別展示「土器の世界 続縄文土器Ⅱ 後北式土器」展示資料紹介	6
○平成 19 年度調査予定遺跡	7
○亥 年	8



○平成 18 年度発掘調査概要

今年度は、道内 11 市町村に所在する 18 遺跡で発掘調査を実施しました。

旧石器時代 旧白滝 5 遺跡では 20 万点を上まわる多量の遺物があり、それらは大規模な遺物集中範囲として平面的に分離され、いくつかの時期の重複として確認されています。キウス 5 遺跡の台地部で細石刃石器群が検出されています。キウス 9 遺跡から広郷技法の彫器 1 点、細石刃 3 点が出土しています。祝梅川上田遺跡では細石刃石器群が 2 ヶ所認められました。前サンル 1 遺跡では珪質頁岩系の石材を使った両面加工の尖頭器破片が出土しています。

縄文時代早期 キウス 9 遺跡では黒曜石製の石刃鎌が 22 点出土し、前年度分と合わせると 90 点を上回ることにになりました。

縄文時代前期 西島松 2 遺跡では植苗式期の竪穴住居跡が検出されています。虎杖浜 2 遺跡では後半期の「攪乱貝層」から暖流系のブリ・マダイ・ヒラメ・カサゴなどの魚類骨が得られています。銚頭、骨針、装身具などの骨角器もあります。

縄文時代中期 キウス 5 遺跡の台地部の住居跡、土坑、焼土はこの時期のものともみなされています。焼土の多くは被熱が著しく、列状に並んでいます。矢不來 8 遺跡では竪穴住居跡、焼土、柱穴様の小土坑が検出されています。これらの遺構は中期後半～後期前葉の時期と考えられます。天寧 1 遺跡で昨年検出した貝塚資料は、水洗選別を行いました。時期は北筒式土器の頃のものであり、貝類はオオノガイが多く、アサリ、ヒメエゾボラ、ホタテ、カキなどが含まれています。土器、石器のほかに銚頭、釣針、針、刺突具などの骨角器、貝製平玉、石製玉などもあります。トド、オットセイ、アザラシ、クジラ、イルカなどの海獣類、エゾシカ、イヌなどの陸獣類、鳥類、カジキマグロ、タラ、カレイ、キュウリウオなどの魚類骨が認められます。貝塚と同じ時期の盛土遺構からは土坑、集石、焼土、灰集中などの遺構が検出されています。さらにこの盛土中からは屈葬人骨 1 体が良好な残存で出土していました。人骨には黒曜石製ナイフ、棒状骨製品、管状骨製品、砂岩礫などが伴っています。占冠原野 1 遺跡では T ピット、土坑が検出されており、ここの T ピットは底部形態の特色ごとにそれぞれ列を成している様子が認められました。

縄文時代後期 柏木川 4 遺跡の低地部では中葉～後葉の河道部分から、舟形の木製品、皿状木製品、槌状木製品、補修孔に紐が付着した土器片、アンギンとみられる繊維製品、漆製品などが出土しています。西島松 2 遺跡では中葉の時期の竪穴住居跡が検出されており、そのうちのひとつでは出入り口部分が確認できました。

縄文時代晩期 キウス 5 遺跡の低位部では円形小土坑を検出しています。天寧 1 遺跡では樽前 c 火山灰の上下から土器、石器が出土しており、樽前 c 火山灰よりも下位の盛土部分からはイノシシの臼歯を含む多くの獣骨類が検出されています。梅川 4 遺跡では竪穴住居跡、土坑、土器集中などが検出されています。西島松 2 遺跡では後葉の時期の土坑墓・土坑、焼土などを多数検出しています。これらの遺構は昨年度の調査区域から続いており、なかには遺体が痕跡的に残存しているものもあります。この時期の土器、石器も多量に出土しています。柏木川 4 遺跡では多数の土坑が検出されています。土坑 KP - 386 からは完形土器 3 個体が出土しています。さらに土坑 KP - 397 には、土器、石器とともに足形付土製品、手形付土製品、把手付双口土器などがみられました。対雁 2 遺跡で検出された土坑、焼土、集石などは晩期中葉～続縄文時代前半の時期です。これらの遺構は自然埋没したとみなされます。土坑は円形や楕円形、規模は長径 0.4 ～ 0.9m ほどの小型のものが多いです。土器は深鉢・鉢・浅鉢・壺・ミニチュア土器などがあり、30 個体が復元されています。なかでも口縁部直径が 55 cm の鉢はこの時期のものとしてはかなり大型の部類になり注目されます。石器は石鎌、スクレイパー、たたき石が多く出土しています。

続縄文時代 上茶路遺跡では樽前 c 火山灰よりも上位から焼土、集石、剥片集中が検出されています。これらは晩期終末～続縄文時代初頭のもので、定形的な石器は石鎌が多いです。

擦文文化期 キウス 5 遺跡の台地部には竪穴住居跡、土坑があり、低位部からも遺物が検出されています。西島松 2 遺跡の竪穴住居跡は一辺が 5m 規模のものの一辺が 2m 規模のものであり、すべてカマドがあり、煙道は南辺にあります。柏木川 4 遺跡では 2 基が対をなす土坑が 5 ヶ所検出されました。

アイヌ文化期 祝梅川上田遺跡では住居跡、灰集中が検出され、鉄鍋、鉈、刀子、マレックなどの鉄製品が出土しています。梅川 2 遺跡では住居跡が検出されています。キウス 5 遺跡の低位部では近世の畑跡 3 枚を検出しています。畑跡には明瞭な畝が認められます。さらに畑耕作以前の建物跡、建物に伴う柱穴群も検出されています。木製遺物には舳か箕の未成品と思われる大型の刳物や曲物蓋の完品、桶の側板、杭、建材などがあり、丸木材、切片も多いです。キウス 9 遺跡で検出された建物跡はこの時期のものであると考えられます。

○平成 18 年度の調査

ほくと やふらい
北斗市矢不來 8 遺跡

遺跡は、茂辺地川の河口から北北西へ約 1.4 kmの海岸段丘上に位置します。平成 17 年にも調査が行われており、縄文時代中期・後期・晩期、続縄文時代の遺構や遺物が見つっています。

今回の調査で新たに見つかった遺構は、竪穴住居跡 1 軒、焼土 1 ヲ所、柱穴のような掘り込み 3 ヲ所です。時期はいずれも縄文時代中期から後期の可能性があります。

遺物は、土器 7,553 点、石器等 1,013 点が出土しています。土器は縄文時代後期前葉のものがほとんどで、わずかに晩期のものがみられます。石器には石鏃、石錐、スクレイパー、磨製石斧、たたき石、すり石などがあります。



遺物出土状況



Tピット完掘

ほくと やふらい
北斗市矢不來 10 遺跡

遺跡は、茂辺地川の河口から北へ約 1.5 kmの海岸段丘上に位置します。

遺構は、狩猟用の落し穴とみられる Tピットが 1 基見つかりました。溝のような形をしており、深さは約 1.3 mありました。

遺物は、土器 1,059 点、石器等 1,604 点が出土しています。土器は縄文時代早期から晩期まで各時期のものがありますが、縄文時代後期前葉、次いで早期後半のものが多いです。石器には、石鏃、石匙、石鏃、スクレイパー、磨製石斧などがあります。この他、明治 2 (1869) 年の箱館戦争時のものと考えられる銃弾が 7 点出土しています。

あかいがわ いたご やさわ ひの で
赤井川村板小屋沢遺跡・日の出 2 遺跡

二つの遺跡は赤井川村の市街地から北へ約 5 km、山腹丘陵地の標高約 190 ~ 200 mに位置しています。

赤井川村は北海道における黒曜石の四大産地の一つとして知られており、両遺跡からは石器製作に伴う黒曜石の剥片や碎片を主体とした遺物が出土しました。このほかに板小屋沢遺跡からは縄文時代中期の土器片が、日の出 2 遺跡からは縄文時代早期、中期、後期の土器片が出土しています。

遺構は、日の出 2 遺跡から縄文時代早期から中期頃の土坑が 2 基、縄文時代以降のものが 1 基検出されました。両遺跡は赤井川と余市平野を結ぶ峠越えの交通の要所に立地していたことが考えられ、ここで製作された石器が他の地域に運ばれていたことが推測されます。



調査状況

平成 18 年度発掘調査一覧

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)
札幌開発建設部	一般国道 337 号千歳市新千歳空港関連工事	キウス 5	千歳市	3,200
		キウス 9	千歳市	7,956
		梅川 2	千歳市	7,625
		梅川 4	千歳市	6,350
		祝梅川上田	千歳市	9,100
石狩川開発建設部	石狩川改修工事の内対雁築堤工事	対雁 2	江別市	700
		対雁 2	江別市	整理作業
函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	矢不來 8	北斗市	82
		矢不來 10	北斗市	7,607
室蘭開発建設部	登別拡張道路改良工事	館野	北斗市	整理作業
		虎杖浜 2	白老町	1,770
釧路開発建設部	釧路外環状道路改良工事	天寧 1	釧路町	2,720
		上茶路	白糠町	1,130
網走開発建設部	一般国道 450 号白滝丸瀬布道路工事	旧白滝 5	遠軽町	4,656
		白滝 8 ほか	遠軽町	整理作業
旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	前サンル 1	下川町	922
		濁川左岸	森町	整理作業
東日本高速道路株式会社 北海道支社	北海道縦貫自動車道建設工事	石倉 1	森町	整理作業
		占冠原野 1	占冠村	4,702
石狩支庁 (札幌土木現業所)	柏木川改修工事	西島松 2	恵庭市	7,205
		柏木川 4	恵庭市	12,600
		西島松 5	恵庭市	整理作業
後志支庁 (小樽土木現業所)	余市赤井川線道路改良工事	板小屋沢	赤井川村	600
		日の出 2	赤井川村	2,400
合 計				78,040

○資料紹介 1 ^{ちとせ}千歳市キウス9遺跡出土の^{せきじんぞく}石刃鋸

遺跡は、馬追丘陵の裾野、キウス川南岸の段丘上にあります。平成17・18年度の調査で縄文時代早期の『石刃鋸』が約90点出土し、道央部でこれほど多量に出土する例がなかったことから注目されました。

石刃鋸は、かみそりの刃のような薄い縦長剥片（石刃）を利用してつくられたヤジリで、大陸に起源が求められる遺物です。石刃鋸をもった文化はシベリア、中国東北部からサハリンを経由し、北海道北東部を中心に早期の一時期（約7000年前）定着したと考えられています。

最近では道東北のみならず、道央部さらに道南部の松前町・北斗市、海峡を越えた青森県東通村尻屋崎からも点数は少ないながら石刃鋸が発見され、分布が広がっています。

キウス9遺跡の石刃鋸は長さ4～5cm、幅1～1.3cmほどのものが多く、形がそろっています。素材の黒曜石はほとんどが置戸所山産です。

遺跡では石刃鋸が多く出土しましたが、土器やその他の石器群がほとんどありません。またこの時期の生活の跡もありません。石刃鋸が広い範囲に点々と出土していることから、狩猟の場であった可能性があります。



主な石刃鋸出土遺跡位置図



主に置戸産の透明感のある黒曜石が使用される。左上のもので長さ5.3cm、幅1.2cm、厚さ0.35cm。

○資料紹介2 釧路町天寧1遺跡出土の漁撈具

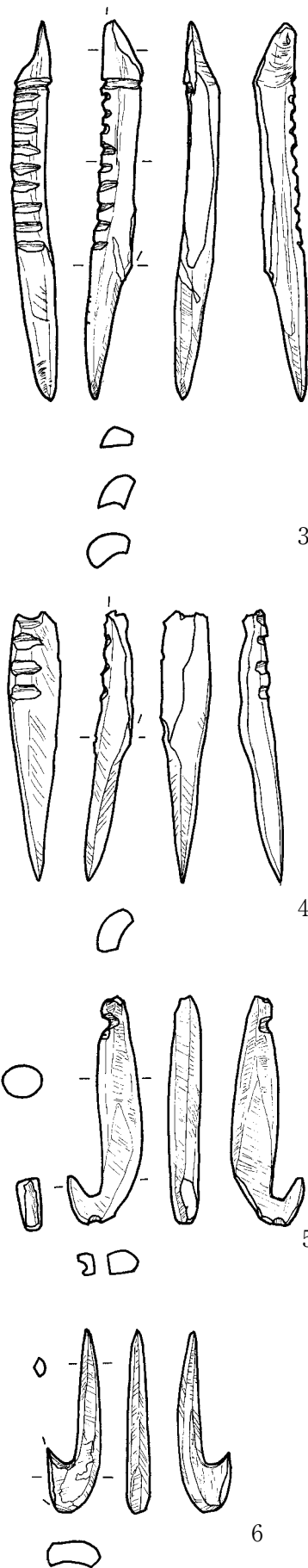
平成17・18年に調査を行った釧路町天寧1遺跡からは、縄文文化後期前葉（約4000年前）の貝塚が発見されました。貝塚からは、銚頭、釣針、骨針、刺突具、骨製管玉、貝製平玉などの骨角器が出土しました。縄文文化の骨角器は、主に鹿角、鹿や海獣、鳥の骨を材料に製作されますが、天寧1遺跡では、ちょっと変わった素材で製作されているものがあります。

写真1～4は銚頭です。1・2が海獣骨素材であるのに対し、3・4はメカジキの鱗棘を素材にしています。刺突具にマグロ類の鱗棘を使用する例は道内の縄文文化の遺跡では散見されますが、銚頭の素材とした例はありません。

他の地域では、メカジキの出土は稀ですが、釧路周辺ではメカジキが出土した遺跡が多く、天寧1遺跡でも鱗棘のほか、脊椎骨や吻部が多く見つかっています。釧路周辺では、縄文文化前期以降、続縄文文化にかけてメカジキ漁の伝統があったと考えられます。なお、銚頭に見られる、体部に溝を刻む特徴や、写真3・4のように尾部が偏る特徴も、縄文文化晩期、続縄文文化の釧路周辺の銚頭に引き継がれています。

写真5・6は釣針です。いずれもトドやアシカといった海獣類の犬歯を素材にしています。これまでに海獣犬歯製釣針が出土した遺跡は、礼文島船泊遺跡（後期中葉）、泊村茶津貝塚（中期後半）、洞爺湖町入江貝塚（後期前葉）、釧路市東釧路貝塚（前期前半）と、黒松内低地帯より北東側に点在しています。周辺地域を見ても、海獣犬歯製釣針は、特異な素材選択の例として注目されます。北海道で釣針が出土した遺跡が集中するのは縄文文化後期前葉の石狩低地帯より南西側の地域ですが、東北地方中南部や関東地方と同様に素材には鹿角が多用されます。なお、天寧1遺跡では銚頭にも海獣犬歯製品が1点あります。

貝塚の資料は現在整理中ですが、出土した動物骨を見ると、オットセイ、トド、アシカ、アザラシ、イルカなどの海獣類が多く、シカが少ない傾向があります。ほかの遺跡出土の骨類を見ても、北海道北東部の沿岸域では海獣類を主とし、陸獣は少ない状況が知られています。天寧1遺跡の骨角器の素材選択は、狩猟・漁撈対象と密接なつながりを持っていることを明確に示しています。



釧路町天寧1遺跡出土の漁撈具写真 ×1.0

釧路町天寧1遺跡出土の漁撈具実測図 ×0.8



○特別展示「土器の世界 続縄文土器Ⅱ 後北式土器」展示資料紹介

特別展示「土器の世界」は北海道の土器文化を時期毎にテーマにした連続企画です。平成13年度の「縄文土器の世界・前期」にはじまり、昨年度の「土器の世界 続縄文土器Ⅰ・恵山式土器」に続き今回の後北式土器に至ります。展示は5つのテーマを通して続縄文文化や後北式土器の概要を紹介し、北海道独自の土器文化の存在を広く知ってもらうことを目的としています。

【1 北海道に弥生・古墳時代はなかった！？】では実物の土器による立体年表を通して、続縄文文化および後北式土器が本州の弥生・古墳時代にあたることを説明します。

【2 「ぞくじょうもん」とはどのような文化でしょうか？】では遺構、遺物を通して明らかになった生業、交易、道具、土器、住居、墓の様子について紹介します（展示資料：江別市吉井の沢1遺跡出土コハク玉、千歳市オサツ2遺跡出土墓副葬品など）。

【3 「江別から生まれた！」後北式土器】では「江別式」とも言われる後北式土器についての研究史と、河野広道氏による「後北式土器」提唱の根拠となった「江別兵村」遺跡出土の土器群について紹介します（展示資料：江別市坊主山、萩ヶ岡遺跡出土土器など江別市郷土資料館収蔵資料、江別遺跡調査時の須田信氏収集資料など）。

【4 後北式土器のいろいろ】では、道央部の土器を中心に後北A式、B式、C1式、C₂-D式、北大式の時期毎の変遷と特徴をたどります。（展示資料：千歳市オサツ2、ユカンボシC15、江別市吉井の沢1、安平町大町2遺跡出土土器など）。

【5 後北式土器の技法】では擬縄貼付文、微隆起線文など後北式土器に見られる独特な施文技法を紹介します。（展示資料：千歳市美々2遺跡、江別市西野幌1遺跡、安平町大町2遺跡出土後北式土器など）

本展示では「後北式」提唱に結びついた江別の遺跡調査を物語る資料として、夕張市教育委員会所蔵の須田信氏収集資料をお借りしました。須田信氏は北海道考古学の黎明期にあたる1930年代から40年代に河野広道氏や後藤寿一氏らとともに江別兵村、町村農場、網走市モヨロ貝塚などの調査に携わっていた方であることがわかっています。（註）。

借用資料は破片を含めて土器6点、石器1点で教育委員会所蔵の須田氏資料の全てにあたります。内訳は続縄文時代後半、後北C₂-D式の注口皿、注口鉢、小型鉢、続縄文前半、後北B式の土器口縁部破片、オホーツク式期の大型甕、縄文時代晩期の小型鉢と蛇紋岩製の磨製石斧です。その内、後北C₂-D式の注口皿、注口鉢、小型鉢とオホーツク式土器の4点を展示しました。

個々の資料には須田氏による注記と解説文が残されており、注口皿と注口鉢には「1933年11月23日発掘 出土地 江別市（町村農場）注口土器（続縄文後半）」、小型鉢には「12 / 11 1933 江別兵村」のラベル、「1933年12月11日発掘 出土地 江別市（兵村）注口土器（続縄文後半）」との解説がついています。オホーツク式土器にも「1933年7月23日発掘 出土地網走市（モヨロ貝塚）オホーツク式土器 貼附紋・刻紋 複合の壺」との解説があり、当時の調査の様子をうかがい知るうえで貴重な資料となっています。

なお、本資料につきましては特別展示終了後も常設展示室での展示を予定しております。

（註）収集の経緯、遺物の内容などは松田宏介・加藤博史「須田信氏収集資料の紹介」『北海道考古学』第40輯（2004年）に詳しい紹介があります。



特別展示会場の様子



江別市町村農場出土注口皿
（夕張市教育委員会蔵）



江別市町村農場出土注口土器
（夕張市教育委員会蔵）



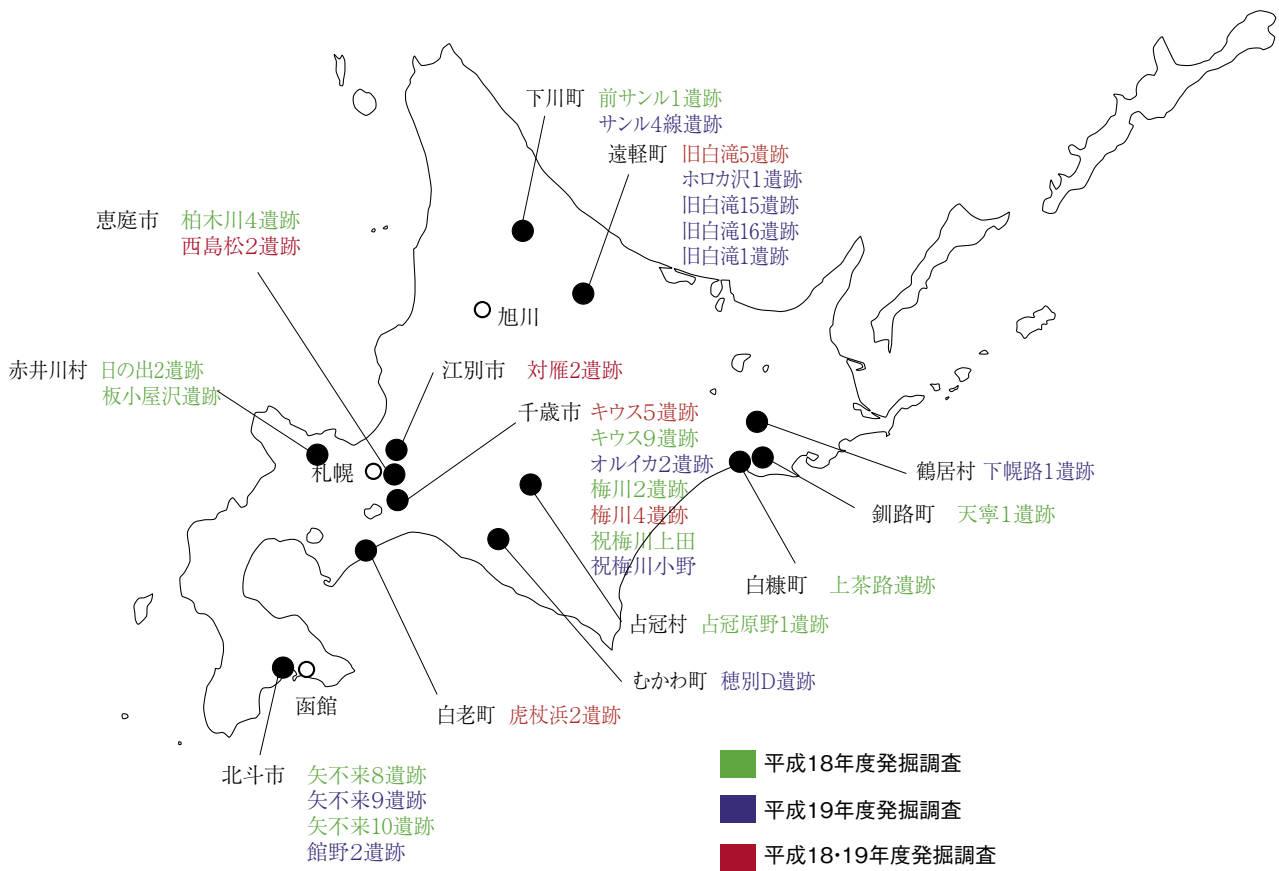
江別市兵村出土小型鉢
（夕張市教育委員会蔵）



網走市モヨロ貝塚出土土器
（夕張市教育委員会蔵）

○平成 19 年度調査予定遺跡

事業委託者	原因工事	遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	
国土交通省北海道開発局	札幌開発建設部	一般国道 337 号千歳市新千歳空港関連工事	キウス 5	千歳市	6,100
			オルイカ 2		4,200
			梅川 4		5,050
			祝梅川小野		12,310
	石狩川開発建設部	石狩川改修対雁築堤工事	対雁 2	江別市	150
	函館開発建設部	函館江差自動車道建設工事	館野 2	北斗市	9,230
			矢不來 9		2,030
			館野		整理作業
	旭川開発建設部	天塩川サンルダム建設工事	サンル 4 線	下川町	3,900
	室蘭開発建設部	一般国道 36 号登別拡幅工事	虎杖浜 2	白老町	1,590
	釧路開発建設部	一般国道 44 号釧路外環状道路改良工事	天寧 1	釧路町	整理作業
	網走開発建設部	旭川紋別自動車道白滝丸瀬布道路改良工事	旧白滝 5	遠軽町	2,366
			ホロカ沢 1		3,800
			旧白滝 15		4,800
旧白滝 16			1,800		
旧白滝 1			5,000		
国土交通省北海道開発局計				62,326	
北海道	石狩支庁	柏木川改修工事	西島松 2	恵庭市	8,150
			西島松 2・5		整理作業
	胆振支庁	道道北進平取線改良工事	穂別 D	むかわ町	4,240
	釧路支庁	道道鶴居弟子屈線改良工事	下幌路 1	鶴居村	1,500
北海道計				13,890	
合計				76,216	



平成 18 年度発掘調査・平成 19 年度発掘調査予定遺跡



○亥年

いよいよ団塊世代が定年退職を迎え始める2007年が明けた。干支は十二支最後の「亥」。猪を含む成語には猪突猛進、猪武者、猪首、猪口、猪口才、猪牙船、猪鹿蝶などそれほど多くはなく、また前二者は本来あまりいい意味ではない。

旧石器時代では不明だが、縄文時代以降イノシシはその肉（獣肉はししと言われ、肉の味はいの一番だからイノシシという説がある。ちなみに二番はカモシカ、三番はシカ、四番はクマ）はもちろんのこと、装飾品や護符として珍重された牙（犬歯）は勾玉のモデルとも言われ、背の剛毛は針として用いられた。『延喜式』には薬の原料として猪脂、猪膏、猪蹄が載っており、猪脂はアカギレの薬として皮膚に塗るほか、乳の出の悪い女性に煮て食べさせると効用があったらしいが、後二者の使用法や薬効については分からない。

また、『筑後国風土記』逸文の磐井の墓（福岡県岩戸山古墳）の記事中に、猪を偷んで裁かれる場面があり、6世紀においてそれは重罪であったことが知られる。

さて、現在北海道にイノシシは棲息していないが、縄文時代の遺跡 — センターが携わった遺跡では白老町虎杖浜2遺跡（前期）、千歳市美々4遺跡（晩期）・キウス4遺跡（後期）など — から骨や歯が、函館市日の浜遺跡からは幼体「瓜坊（うりぼう）」を模した土製品が出土しているものの、当時から棲息はしておらず、必要の都度本州から持ち込まれたのではないかと、飼育されていたのではないかなどの考えが示された。

2006年度には釧路町天寧1遺跡（晩期）からも骨や臼歯が出土した。今年の整理作業の結果、新知見が得られるかも。

嗚呼、初夢に現れなかったが、未だ食したことのない牡丹肉を一度味わってみたい。

（第1調査部長 千葉英一）



◆交通案内◆

- ・JR 大麻駅から、徒歩約20分
- ・新さっぽろバスターミナル発
 - ・JRバス（文教通西循環線）・夕鉄バス（文京台南町行）に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
 - ・JRバス・夕鉄バス（江別方面行き）に乗車「道浅井学園大札学院大前」下車、徒歩15分